

『ひまわりワゴン』スタート!! 顧客サポートセンターひまわり

顧客サポートセンターひまわりでは、入院される患者さまへのサービスの一環として、10月28日より『ひまわりワゴン』が病室を巡回しております。『ひまわりワゴン』は入院されている患者様が売店を利用するにあたり、お体の具合によってはなかなか売店まで足を運ぶのが大変な場合もあるという声をもとに、それであればこちらから患者さまのもとへお伺いしようと始めました。取扱い商品は【ミネラルウォーターやお茶・新聞や雑誌・日用品（洗面、洗髪用具・洗剤・ティッシュ・イヤホン・靴下他）・介護用品（食事用エプロン・杖置き・肌着他）となっております。



病棟巡回ワゴン販売サービスを開始致しました

サービス提供時間（病棟巡回時間）	
3階病棟	火・金 11:00 ~ 12:00
4階病棟	月・水 11:00 ~ 12:00

まだサービスを開始したばかりですが、利用された患者さまからは…
「売店にはまだ行けないから部屋まで来てくれたよかった」
「雑誌があると暇つぶしになる」
「急な入院で用意をして来なかったため日用品があって助かる」
「靴下の替えが欲しかった」「良いサービスだね」
などの声が聞かれています。



あらかじめ巡回する曜日と時間帯が決まっておりますので「もうそろそろ来るかな?」と待っていてくださる患者さまもおられます。ワゴンでの販売ですので種類・品数に限りはありますが、患者さまのご要望などをお聞きし、みなさまの声にきめ細かく対応致します。

また、直接お部屋に向く事により、利便性を提供し快適な入院生活を過ごして頂けるようお手伝い致します。定期的にお顔出しするワゴンサービスが皆さまの楽しみの一つになっていただければと思います。お気軽にお声掛け下さい。皆様のご利用をお待ちしております。

編集部からのお知らせ

- 次回の『日和坂』は4月発行予定です。
- 『日和坂』につきましてご不明な点などございましたら
患者サービス向上委員会までお気軽にお問合せ下さい。
0138-23-7223 担当 佐々木(総務管理課)まで

患者様の権利

1. 適切な医療とケアを受ける権利
2. 人格を尊重される権利
3. プライバシーを尊重される権利
4. 医療上の情報、説明を受ける権利
5. 自己決定の権利
6. セカンドオピニオンを求める権利

高橋病院の基本理念

地域住民に愛される、信頼される病院

高橋病院の方針

- 一、生活を支えるリハビリテーション医療を提供いたします。
- 一、チームワークのとれた魅力ある職場をつくりまします。
- 一、思いやりとおもてなしの心をもったサービスを提供いたします。
- 一、地域に根ざした連携文化を育みます。



◆編集責任者： 〒040-0054 函館市元町32番18号 TEL 0138-23-7221
患者サービス向上委員会



日和坂

vol. 42
2014. 1

ロボットスーツHALが導入されました

リハビリテーション科



昨年の11月に3回目の函館リハビリテーション講演会を開催しました。講演会にはロボット工学で有名な筑波大学システム情報系 教授 山海先生を招いて盛大にさせていただきました。

昨今、介護の分野にてロボットを利用しようとする動きがあり、そのための研究開発が活発になっています。そして、その成果についてはマスコミを通じて目に触れる機会がおおくなったと感じます。

今回、講演をして頂いた山海教授のロボットはサイバニクスを応用したロボットです。紹介して頂いた製品は、体に装着することによって身体機能を補助・増幅・拡張することができる世界初のサイボーグ型ロボット“HAL”でした。“HAL”の機械的特長は、生体電位信号を検出し、人間の思い通りに動作する「サイバニック随意制御システム」と、人間のような動作を実現することができる「サイバニック自律制御システム」の二つの制御系を有するところです。

リハビリテーションの世界では、この特長を活かして、障がいをもした方の運動機能の再建に役立てようとしています。山海教授からは、ポリオの後遺症を有する方に対する“HAL”を装着したリハビリを行ったところ、筋の出力が生じてきたといった報告も紹介して頂きました。

リハビリテーションの効果は、シナプスの再構築（再編と強化）による運動学習の効果と言われています。紹介して頂いた事例がこの学習理論で説明できるかということ、少し難しいように思えますが、このような取り組みをもって、脳卒中などの中枢神経障害を有する方にリハビリテーションを行っていく事も必要であろうと考えさせられました。“HAL”の治療効果について、臨床試験が行われていると聞きます、今後の展開が楽しみでもあります。

当院でも“HAL”を導入しましたので、“HAL”を装着して、どんな（運動の種類 時間 負荷強度）リハビリをしていこうか、試行錯誤をしていきたいと考えています。



Prof.Sankai University of Tsukuba / CYBERDYNE Inc.

年始のご挨拶

事務長 笹谷健一

新年明けましておめでとうございます。平成26年の初春を皆様いかがお過ごしでしょうか。今年のお正月は、ここ数年間と比べましても降雪量も少なく、またインフルエンザ等の流行もなく穏やかな三が日だったように思います。ただ、油断していますといきなりドカ〜と雪が降ることもよくありますので、充分注意されてください。インフルエンザやノウイルスも普段からの予防が大事ですので、外出から戻られたら含嗽や手洗いをこまめに行い予防に努めてください。さて、今回は、函館の歴史の中でも医療に関する「諸術調所と旧函館病院」についてお話しさせていただきたいと思います。

元町公園下の基坂の西側は、現在、ペリー広場と観光バスの駐車場になっていて、ペリー提督来航記念碑とペリー提督来航時足跡絵図のほかには何の建造物もありませんが、幕末の開港期と明治維新後には、諸術調所(しよじゅつしらべしよ)と旧函館病院という全国的に見ても意味の大きな施設が置かれました。



まず安政3(1856)年に開設された諸術調所は、箱館奉行所の教育研究施設でした。開港場となった箱館において、軍艦や捕鯨船を通して入る西洋の文化・文明を学び、かつ分析しながら、蝦夷地の開拓や警備に役立つ人材を育成することが狙いでした。巨大な戦艦を率いたペリーの来航で技術力の差をまざまざと見せつけられ、負けてはならじという幕府の気概と焦りが入り混じる中、江戸においては蕃書調所(ばんしょしらべしよ)が設けられ、外国の本を翻訳し情報を収集しながら教育・研究が行われます。ここでは主に理論が中心であったのに対し、諸術調所では実務に重きが置かれました。教授となったのは、五稜郭や弁天岬台場の設計で知られる武田斐三郎(あや

さぶろう)でした。伊予大洲藩(現在の愛媛県)出身の斐三郎は、緒方洪庵に医学や蘭学を学んだほか、佐久間象山に兵学や砲学を学び、航海術、測量術にも長じていました。身分の上下や、幕臣の子弟かどうかで区別するのは天下の人材を教育する道ではないという斐三郎の考え方により広く門戸が開かれたため、全国から優秀な人材が集まりました。郵便制度の創設者となる前島密や、鉄道制度の創設者となる井上勝、日本銀行の初代総裁となる吉原重俊など、後世に名を残す多くの逸材を輩出しました。斐三郎は、箱館奉行所が統豊治(つづきとよじ)に造らせた箱館丸で、門下生を従え日本一周の実習航海を2回にわたって行うほか、第2号船の亀田丸では、ロシアのニコライスクまで4カ月に及び実習航海を行い、現地では絹、馬鈴薯、米、醤油などの出貿易を行っています。

ところが元治元(1864)年、斐三郎が自分の設計した五稜郭の完成も待たず開成所(蕃書調所の後身)教授として江戸に転出したため、諸術調所は8年で廃校となります。開成所は東京大学の前身であり、諸術調所も続いているれば、帝国大学になっていたかもしれません。後に同志社英学校を創立する新島襄は、この元治元年に箱館に来てアメリカへ脱国しますが、箱館に来た本来の目的は諸術調所で斐三郎の教えを受けることであり、(右上へ続く)

その斐三郎が一足違いで江戸に出たため、アメリカを目指したとも言われています。諸術調所の建物の一部は、後に開拓使立函館学校や公立松蔭学校(当時「公立」とは財界人の寄付によるものを意味し、現在の公立に相当する言葉としては「官立」が使用された)の校舎として使用され、明治14(1881)年には、北海道初の病院として近代医療の先鞭をつけた函館病院がこの地に移転します。



函館病院は、文久元(1861)年、現在の姿見坂と幸坂(さいわいざか)の間に、入院設備をもつ200坪の病院としてスタートした箱館医学所が前身です。その開設は安政6年、市中の医師40名が協議の上、栗本鋤雲(くりもとじょうん)と塩田順庵(しおだじゅんあん)に医書の講義を依頼し、その報酬が100両に達したら、娼妓の梅毒治療や貧民の施療にあたる小堂を設けようと画策したことに始まります。栗本鋤雲は、日本屈指の腕をもつ幕府のお抱え医師でしたが、西洋医学に興味をもちオランダ船に足を踏み入れたことから左遷され、箱館に来たという人物でした。ところが、ロシアが病院を建てるという情報をキャッチしたため、先を越され

まいとして、奉行や役人、市民からも寄付を募り、すぐに建設に踏み切ります。安政7(1860)年には棟上げにこぎ着けますが、降り積もった雪の重みで倒壊したため、新たに遊郭からの借り入れで工事を再開し、何とかロシアに先行して開院しました。ただしこの箱館医学所よりも、3年後の文久3年に開設されたロシア病院の方が設備、技術ともに優れていたため、人々はロシア病院での施療を望んだといえます。脱国前にロシア病院で眼の治療を受けた新島襄も、患者への食事や寝具、入院着なども含めロシア病院が格段に上だったことを書き残しています。

当初はそうであったにせよ、箱館医学所こそが北海道最初の病院であり、箱館戦争の際には、西洋医学を修め幕府使節としてヨーロッパ各国を視察し見聞を広めた高松凌雲が、頭取(院長)として敵味方の分け隔てなく治療を行ったことは、日本の赤十字精神の始まりとして語り継がれています。

箱館医学所は明治4年、函館病院として基坂の上、現在の旧函館区公会堂の向かって右奥の場所に新築されますが、火災により諸術調所の跡地に移転し、港町に移転する平成12(2000)年まで、市立函館病院としてこの場所で長い歴史を刻みました。

当院も明治27年(1894)に現在の豊川町に創業し今年で120年、今後も地域住民の皆様へ愛される病院として頑張っておりますので、宜しくお願い申し上げます。

平成26年が、皆様にとりまして健康で飛躍の年でありますように心からご祈念申し上げます。

事務長 笹谷健一



日和坂工事終了しました

昨年春の号で病院横の日和坂がきれいな石畳の坂へ整備された事を紹介させていただきました。

当時は病院前のバス通りから下の市電通の間だけの整備となっていました。今年の秋から再び工事が入りまして、整備されていなかったバス通りから上の日和坂もきれいに整備されました。

病院裏の出入口が使いづらい期間もあり、当院ご利用の皆様にはご不便をおかけいたしました。多大なるご理解とご協力により、予定より早く昨年末に工事が終了しました。



この機会に狭かった病院の車両入口も広くなり、天使寮の前もきれいになりました。残念ながらロードヒーティングがしかれることはなかったのですが、すっきりと整備されたと思います。

下の坂同様に片側ではありますが、歩道も整備され、登下校する学生さんも安心なのではないでしょうか。観光に訪れた方が歩くことも多い坂の為、坂を歩く方にも車を運転する方にもやさしい坂になりましたので、病院へ来られる際にお時間の余裕がありましたらチェックしてみてください。と言っても、年明け以降の冷え込みと雪で道路が覆われてしまったので、雪解けの春の小さな楽しみのひとつにさせていただけたらと思います。

【 日和坂の由来 】

坂の上から港の景色を一望でき、空模様をよく判断できるというところから名前がつけました。

また、坂の上にある船魂神社辺りからは、トビの飛び姿がよく見えたことから、坂の上の方をトビ坂と呼んだそうです。